

Economic Indicators

発表日: 2023年4月21日(金)

主要経済指標予定(2023年4月24日~4月28日)

(株)第一生命経済研究所 経済調査部
日本経済短期チーム (TEL: 03-5221-4525)

(4月24日~4月28日の主なイベント、指標予定)

	指標名	当社予測	市場予測	市場予測レンジ	前回結果
4月24日 (月)					
4月25日 (火)	8:50 3月企業向けサービス価格指数 (前年比)	+1.6%	+1.7%	+1.6%~+1.9%	+1.8%
4月26日 (水)					
4月27日 (木)	金融政策決定会合 (~28日)				
4月28日 (金)	8:30 4月消費者物価指数(都区部) 東京コア(前年比) 東京総合(前年比)	+3.3% +3.4%	+3.2% +3.3%	+3.0%~+3.3% +3.1%~+3.4%	+3.2% +3.3%
	8:30 3月労働力調査 完全失業率	2.5%	2.5%	2.4%~2.6%	2.6%
	8:30 3月一般職業紹介状況 有効求人倍率	1.34倍	1.34倍	1.33倍~1.35倍	1.34倍
	8:30 2月サービス産業動向調査 売上高(前年比)	—	—	—	+5.0%
	8:50 3月商業動態統計・速報 小売業販売額(前年比)	+6.9%	+6.5%	+4.0%~+8.6%	+7.3%
	8:50 3月鉱工業指数・速報 生産(前月比) (前年比)	▲0.3% ▲1.9%	+0.4% ▲1.2%	▲0.7%~+1.8% ▲2.3%~+1.4%	+4.5% ▲0.6%
	14:00 3月住宅着工統計 新設住宅着工戸数(前年比) (季調値年率)	▲3.2% 87.8万戸	▲3.8% 87.8万戸	▲11.3%~▲0.2% 80.7万戸~90.3万戸	▲0.3% 85.9万戸
	日銀総裁定例記者会見 4月日銀展望レポート				

3月都区部消費者物価指数（生鮮食品除く総合） 当社予想：前年比+3.3% 中央値：同+3.4%

CPI コアは前年比+3.3%と、前月から上昇率がやや拡大すると予想。エネルギー価格が前年比でマイナス転化する一方、エネルギー以外のコアコアが伸びを高める見込み。4月は年度替わりのタイミングでもあることから、価格引き上げに動く企業が増えたとみられる。

（シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴）

3月完全失業率／有効求人倍率 当社予想：2.5%/1.34倍 中央値：2.5%/1.34倍

海外経済減速を受けて製造業での求人意欲がやや弱まっている一方、ウィズコロナの進展を受けて外食や宿泊での人手不足感は強まっている。全体としては緩やかな改善が続いているとみられる。

（シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴）

3月小売業販売額 当社予想：前年比+6.9% 中央値：同+6.5%

新型コロナウイルスの感染第8波が収束したことで外出抑制姿勢が弱まり、3月の個人消費も底堅く推移した可能性が高い。足元でウィズコロナのさらなる進展がみられており、1-3月期の個人消費も緩やかな増加基調が継続したとみられる。

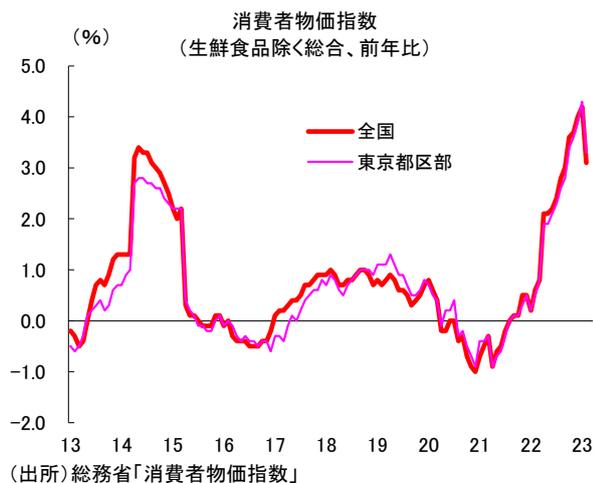
（シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴）

3月鉱工業生産指数 当社予想：前月比▲0.3% 中央値：同+0.4%

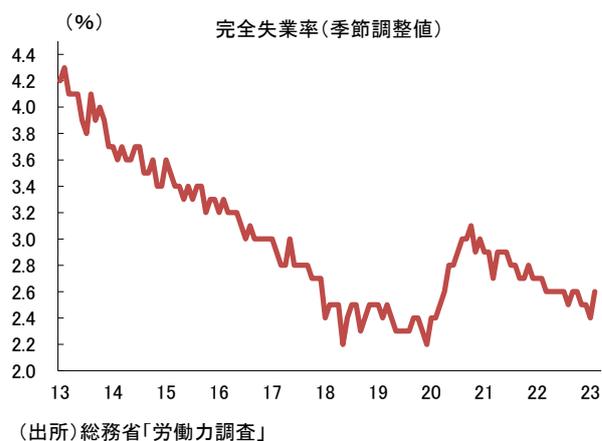
23年3月の鉱工業生産は、前月比▲0.3%と2か月ぶりの減少を予想する。アジア圏における春節の影響で2月は実勢より上振れた可能性が高く、3月は反動減が出ると見込む。もともと、ゼロコロナ政策からの転換で中国景気の持ち直しがみられることや、供給制約の緩和から自動車生産で回復が続いたことで、全体としては小幅の減少に留まるだろう。先行きについては、欧米諸国の経済減速が鮮明となることで輸出は低迷が続くとみられ、鉱工業生産も停滞感の強い状況が続くだろう。

（副主任エコノミスト：大柴 千智）

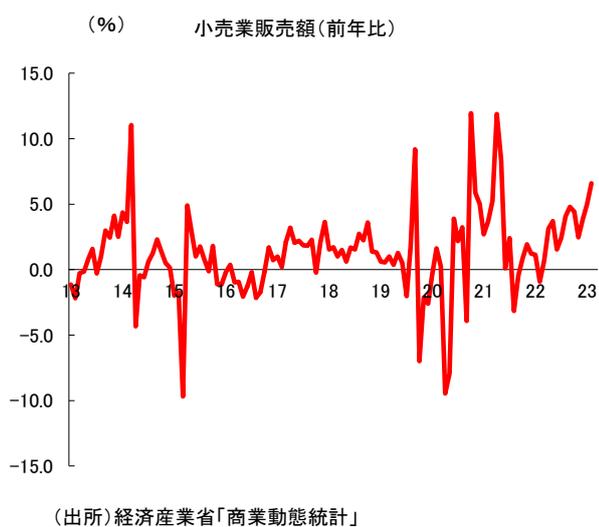
図表1



図表2



図表3



図表4



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。